

血液腫瘍内科学

責任者：内科学講座血液腫瘍内科分野 伊藤 薫樹 教授

学習方針（実習概要等）：

血液腫瘍内科は「造血システムの不調（再生不良性貧血、骨髄異形成症候群、免疫性血小板減少症、抗癌剤治療や移植後）や造血器腫瘍（急性白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫）がどのように個体の全身へ影響を及ぼすのか」の基礎知識を学習の出発点とする。実習では、血液疾患の患者さんの診察・診療（検査、診断、治療）の回診チームに所属し、各学生が個々の症例の臨床的問題想起から解決までを経験し、チーム内で説明や議論に参加する。これらを通じて、血液疾患のみならず全身疾患の診察・管理を経験する。

教育成果（アウトカム）：

診断・治療とその原理を理解し、個々の病態に即した基本的対応を説明できる。
個々の血液疾患患者に対し、血液疾患および全身の問題点を把握し、適切な対応が説明できる。

（ディプロマポリシー：2,6,7,8）

到達目標（SBOs）：

- *1. 患者さんと医療面接・診察を行い、病歴・身体所見を電子カルテに記載できる。
- *2. 面接と診察から得られた情報に基づいて、患者の状態を説明し、検査計画をたてることができる。
- *3. 血液・生化学検査を説明できる。
- *4. 骨髄・画像所見を説明できる。
- *5. 上記の情報に基づき、患者の病態を説明できる。
- 6. EBMに基づいた治療方針をたてることができる。
- 7. 末梢血および骨髄塗抹標本を観察し、血球形態を理解し、診断できる。
- 8. 造血器悪性疾患による抗腫瘍化学療法施行中の患者さんについて、適切な補助療法を計画することができる。
- 9. 幹細胞移植の適応・方法を説明できる。

特に留意すべき注意事項：

1. 患者さんに接する際には、感染予防のため、手洗いを励行し、マスクをすすめる。
2. 主治医としての自覚を持って、毎日患者を診察する。異常所見を認めた場合には担当医に速やかに連絡する。
3. グループ回診やカンファランスを通じて、うけもち患者のプレゼンテーションを行い、その場でフィードバックを受け疑問点を解決すること。

事前学修内容および事前学修時間：

1. シラバスやログブックに記載されている各実習内容を確認し、下記教科書・講義レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行う。基礎知識については、「病気がみえる」で、実習中の内容については「イラストで理解する みんなの血液内科学（中外医学社）」での学習を推奨する。さらに、経験する病態により、各種の「初期研修医・内科レジデントマニュアル」「内科学書」の参照や通読を推奨する。
2. 実習前に医療面接・診察など基本的臨床技能実習で修得した手技について再確認をすること。
3. 実習前に e ポートフォリオ（WebClass）「日々の振り返り 今日の目標」にて、事前学修内容を踏まえた自己到達目標を設定し実習へ臨むこと。各実習に対する事前学習の時間は最低60分を要する。本内容は全実習期間に対して該当するものとする。
4. 適宜 e ポートフォリオ（WebClass）を通し個人に対する実習のフィードバックを行う。しかし事前学習を基に実習中に臨床で生じる疑問を、直接指導医に質問やディスカッションを行う事が、最も効率的な学習で、大切な経験である。実習では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。

第4・5学年臨床実習スケジュール [血液腫瘍内科学]

指導医師名：①伊藤薫樹教授 ②小宅達郎准教授 ③古和田周吾講師 ④岡野良昭助教 ⑤西谷真来助教 ⑥前田峻大助教 ⑦佐藤剛助教

曜	1 時限	2 時限	3 時限	4 時限
月	オリエンテーション	BST	BST	BST・チームミーティング
[場 所] [指導医]	[医局] ③	[西 6A 病棟] ①②③④⑤⑥⑦	[西 6A 病棟] ①②③④⑤⑥⑦	[西 6A 病棟] ①②③④⑤⑥⑦
火	外来実習、BST	外来実習、BST	総回診	標本検討会、BST
[場 所] [指導医]	[西 6A 病棟、外来 G ブロック] ①④⑤	[西 6A 病棟、外来 G ブロック] ①④⑤	[西 6A 病棟] ①②③④⑤⑥⑦	[西 6A 病棟] ①②③④⑤⑥⑦
水	外来実習、BST	外来実習、BST	BST	BST
[場 所] [指導医]	[西 6A 病棟] ①③④⑤	[西 6A 病棟] ①③④⑤	[西 6A 病棟] ③④⑤⑥⑦	[西 6A 病棟] ③④⑤⑥⑦
木	外来実習、BST	外来実習、BST	BST	BST
[場 所] [指導医]	[西 6A 病棟、外来 G ブロック] ①②③④⑤	[西 6A 病棟、外来 G ブロック] ①②③④⑤	[西 6A 病棟] ③④⑤⑥⑦	[西 6A 病棟] ③④⑤⑥⑦
金	外来実習、BST	外来実習、BST	口頭試問	BST
[場 所] [指導医]	[西 6A 病棟、外来 G ブロック] ②③④⑤⑥	[西 6A 病棟、外来 G ブロック] ②③④⑤⑥	[教授室] ① ②	[西 6A 病棟] ②③④⑤⑥⑦

授業に使用する機械・器具と使用目的

使用区分	使用機器・器具等の名称	台数	使用目的
診断用機械	心・腹部超音波検査装置	1台	患者の評価に使用する。
診断用機械	骨髄穿刺針	5本	骨髄検査に使用する。
実習用機械	骨髄塗抹標本	20枚	標本実習に使用する。
視聴覚用機械	マルチディスカッション顕微鏡	1台	血液標本を同時に観察する。
視聴覚用機械	ノート型PC (I-Book G3)	1台	臨床実習における講義に使用する。
視聴覚用機械	デジタルカメラシステム (PixeraPro150ssPro150ss)	1台	臨床実習における症例検討
その他	パソコン (I-mac17インチ 1.83GhzIntelCoreDuo)	1台	臨床実習における症例検討などのデータ作成
その他	複合機 (DocuCentre II C3300PFS)	1台	臨床実習における資料作成
その他	A3 カラー複合機 (e-STUDIO4525AC)	1台	臨床実習における資料作成
その他	臨床データ統計処理用端末 (VGN-G1KBN)	1台	講義資料作成
その他	ノートパソコン (2.16GHz Intel Core2Duo)	1台	講義資料作成
視聴覚用機械	パソコン (MacBook 2.1GHz Intel Core 2 Duo-White)	1台	講義・実習資料作成
視聴覚用機械	学術画像参照用端末 (MB324J/A-D)	1台	講義・実習資料作成

教科書・参考書等：

- ・イラストで理解する みんなの血液内科学 (中外医学社)
- ・ワシントン初期研修医必携マニュアル
(メデイカルサイエンスインターナショナル)
- ・血液病学 (文光堂)

成績評価方法

臨床実習評価は以下の項目について 100 点満点で評価する。

1. 知識：15 点
2. 態度：20 点
3. 技能：25 点
4. ポートフォリオ：20 点
5. 指導医評価：20 点